

2

運 転 す る 前 に

各部の開閉

キー	2-2
ドア	2-5
チャイルドブルーフ	2-10
パワーウィンドウ	2-11
フューエルリッド (燃料補給口)	2-15
ボンネット	2-17
リヤゲート	2-19
電動ガラスサンルーフ	2-21

シート

正しい運転 (乗車) 姿勢	2-24
フロントシート	2-26
リヤシート	2-31

シートベルト

シートベルトの正しい着用	2-35
フロントシートベルト	2-38
リヤシートベルト	2-42
ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー	2-46

SRS エアバッグシステム

SRSエアバッグシステム	2-49
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき	2-54
SRSエアバッグ警告灯	2-62
車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください	2-63

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング	2-64
ルームミラー	2-64
ドアミラー	2-65

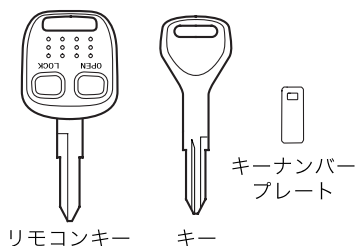
各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。

リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲートの施錠、解錠がボタンで操作できます。

STI以外



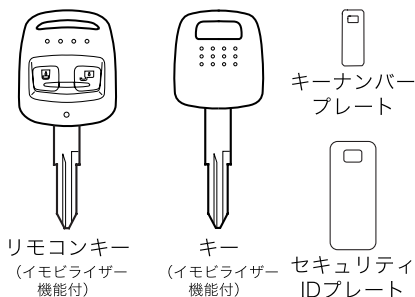
リモコンキー

キー

キーナンバー
プレート

201199

STI



リモコンキー
(イモビライザー
機能付)

キー
(イモビライザー
機能付)

キーナンバー
プレート

セキュリティ
IDプレート

201184

- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。
- セキュリティIDプレートにはキーをイモビライザーに登録するためのセキュリティIDが打刻してあります。



アドバイス

- キーナンバープレートとセキュリティIDプレート（イモビライザー機能付車）は、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティIDプレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーとセキュリティID（イモビライザー機能付車）をメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

イモビライザー機能付キーには個々の違った識別コードが登録されています。差し込まれたキーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードのないキーなどではエンジンを始動することができません。

🏠 アドバイス

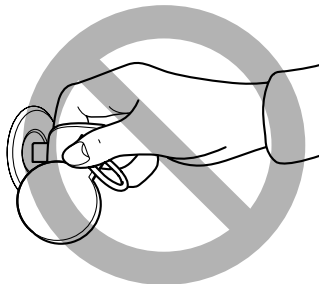
- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアをロックしてください。
- イモビライザー機能付キーは、最大4つまで登録できます。
- 合いかぎを作る際は、セキュリティIDプレートに打刻されているセキュリティIDが必要になりますので、セキュリティIDプレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため全てのキーの識別コードの再登録、リモコンの再登録をお奨めします。
- 登録は、スバル販売店でのみ行えます。

●イモビライザー表示灯

通常は点滅してイモビライザーが作動していることを示します。エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯し、エンジンの始動ができます。正規のキー以外を使うと、表示灯が点灯しエンジンを始動できません。もし、正規のキーを使っても表示灯が点灯し始動できない場合、一旦キーを抜いて再度やり直してください。

⚠️ 注意

- キーは、強い磁石の近くには置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
 - ダッシュボードの上など高温になる場所には置かないでください。キーは水にぬらさないでください。
 - 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
- ①キーグリップに金属製のものが接しているとき。

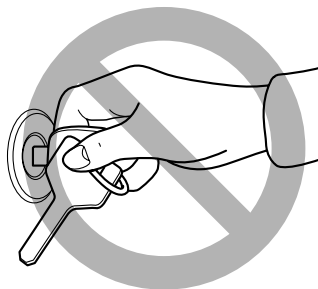


200376

次ページへ ⇒

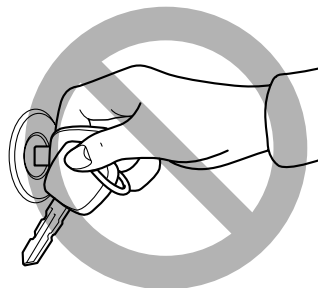
⇒前ページより

- ② キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき。



200377

- ③ キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき。



200378

- ④ キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき。



アドバイス

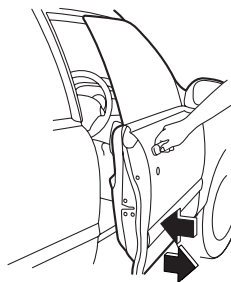
エンジンスイッチにキーを差したままにしておくと、イモビライザー表示灯が再度点滅しますが、エンジン始動はできます。

ドア

■ ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。

ドアを閉めるときは確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



200114

⚠ 注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を十分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあります危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあります危険です。

🏠 アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆2-10、3-4ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択しご使用ください。

施錠している場合

- － お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- － 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- － シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

解錠している場合

- － 万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波により、車から離れたところ（約1 m）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

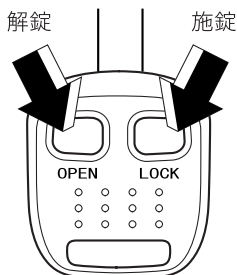
●施錠

車のまわりからリモコンキーの「LOCK / 🔒」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

●解錠

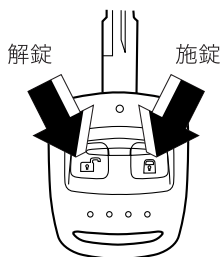
車のまわりからリモコンキーの「OPEN / 🚪」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

STI以外



201200

STI



201164



アドバイス

車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

●半ドア警報

ドア（リヤゲート含む）が確実に閉まっていない場合、リモコンキーで「LOCK / 🔒」ボタンを押すとブザーが4回鳴ります。

ドア（リヤゲート含む）を確実に閉めてから施錠してください。


●ブザーの解除

解錠時や施錠時に鳴るブザーを消音にすることができます。
詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、初期設定の状態（ブザーが鳴る設定）になります。

●ルームランプとカーゴルームランプの連動

ルームランプとカーゴルームランプのスイッチがドア連動位置にあるとき、リモコンにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプおよびカーゴルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中、リモコンの「LOCK / 」ボタンが押された場合、またはエンジンスイッチにキーを差ししてONにしたとき、ルームランプおよびカーゴルームランプは消灯します。

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

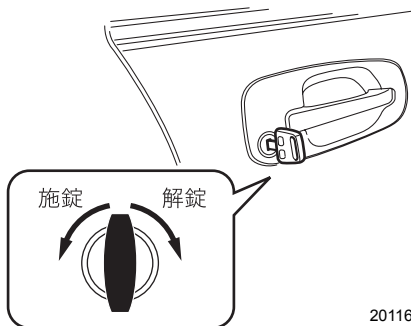
自動施錠する約5秒前に、ブザーでお知らせします。

アドバイス

- 車の周囲約1 m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアの場合、作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - －ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - －強い衝撃を与えないでください。
 - －電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
 - －水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。

■車外からキーによる施錠・解錠

キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。



201165



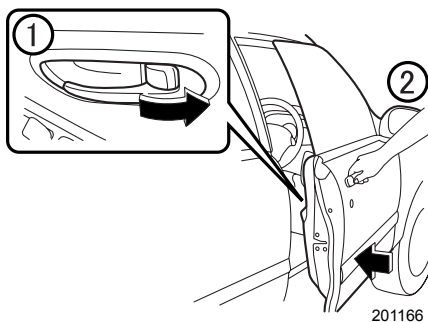
アドバイス

車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。

■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

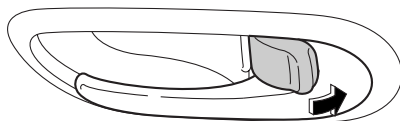
- ① ドアロックノブを後ろ側に引きます。
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。



201166


●リヤドア

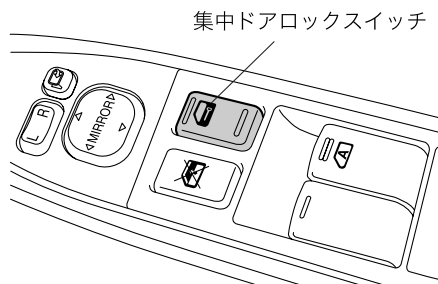
ドアロックノブを後ろ側に引いてドアを閉めます。



201167

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチを前側（側）に押しと全てのドアとリヤゲートが施錠されます。後ろ側に押しと全てのドアとリヤゲートが解錠されます。



201186


注意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- 運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチを前側（側）に押ししてドアを施錠しても、自動的にドアが解錠されます。

▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

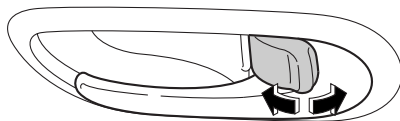
- ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたとき機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを後ろ側に引くと施錠され、前側に押すと解錠します。



201169

■キー抜き忘れ警報

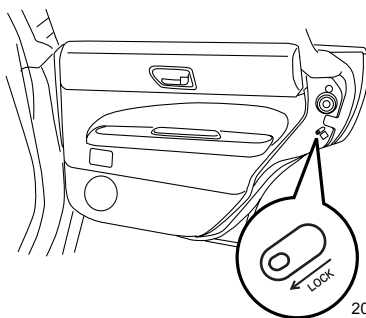
キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンスイッチのリングが点滅します。ただし、エンジンスイッチがONのときは警報は作動しません。

チャイルドブーフ

左右のリヤドアにあります。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドブーフのレバーを矢印方向に動かしてドアを閉めると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくなります。解除するときはレバーを矢印とは逆方向に動かしてください。



200049

■チャイルドブーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引いて開けます。

車内から開けるときは、ドアロックノブを解錠にし、ウインドウを下げ車外のドアハンドルを引いて開けます。

パワーウィンドウ

パワーウィンドウは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

■スイッチの操作

●運転席ウィンドウの開閉操作方法

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。



アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウィンドウの初期設定をしてください。

初期設定がされないと運転席ウィンドウは自動で全開（全閉）しません。

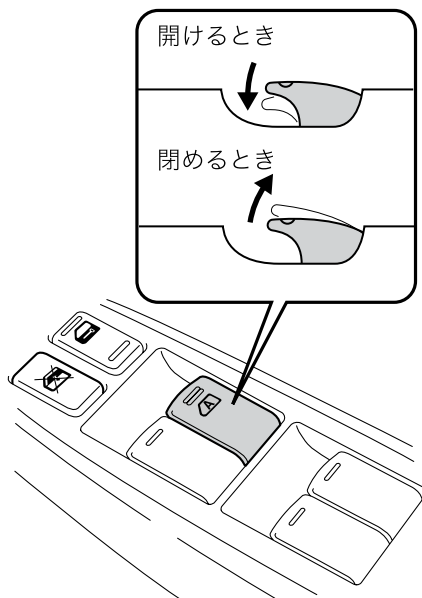
☆2-13ページ参照

開けるとき：

- スイッチを軽く押します。押している間ウィンドウが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウィンドウの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

閉めるとき：

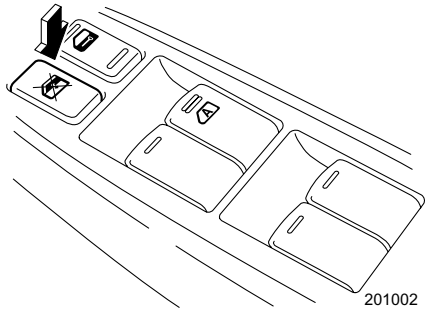
- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウィンドウが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウィンドウの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。



201161

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウィンドウは開閉できなくなります。(ロック状態)
もう一度スイッチを押すとロックは解除されます。



●助手席、後席ウィンドウの操作方法

それぞれのウィンドウを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。

閉めるとき：スイッチを引き上げます。



■ ウインドウ反転機能

運転席のウインドウが自動全閉中、窓枠とウインドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

注意

- 走行時（約10 km/h以上）、ウインドウ反転機能は作動しません。
- ウインドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないように注意してください。
- ウインドウ反転機能は自動全閉時のみ作動します。スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドウに加わるとウインドウ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウインドウ反転機能が作動してしまい運転席ウインドウを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。または10 km/h以上で走行しながらスイッチを引くと閉めることができます。
- ウインドウ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドウが作動しません。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウインドウの初期設定をしてください。初期設定がされないと、ウインドウ反転機能が作動しません。

■ パワーウインドウの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、必ずパワーウインドウの初期設定を行ってください。パワーウインドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウインドウの自動全開（全閉）

☆2-11ページ参照

- ウインドウ反転機能

●初期設定のしかた

- ① ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。
- ② 運転席ウィンドウスイッチを下に押し、半分くらいまでウィンドウを開けます。
- ③ 運転席ウィンドウスイッチを上を引き続け、ウィンドウを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上を引き続けてください。

警告

- パワーウィンドウが閉まる時には大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウィンドウスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2-12ページ参照

注意

ウィンドウの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けしないでください。パワーウィンドウの故障の原因になります。

アドバイス

- 車体の構造上、後席のウィンドウを全開にすることはできません。
 - 下記操作を行うとパワーウィンドウのブレーカーが作動してウィンドウの開閉ができなくなることがあります。
 - ー 運転席ウィンドウを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
 - ー 3席以上のウィンドウを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。
- この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウィンドウの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、運転席ウィンドウの自動全開（全閉）およびウィンドウ反転機能は作動しません。

☆2-13ページ参照

フューエルリッド（燃料補給口）

メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料補給口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

FUEL DOOR▷

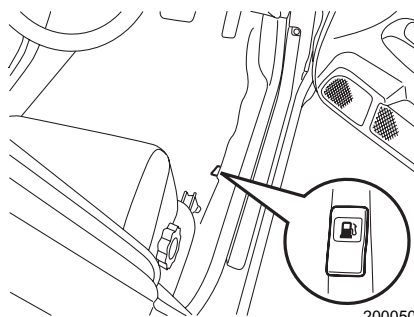
200150

	使用燃料	タンク容量
ターボ車	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	約60 l
ターボ車以外	無鉛レギュラーガソリン	約50 l

運転する前に

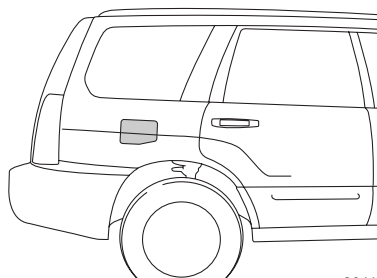
■フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。



200050

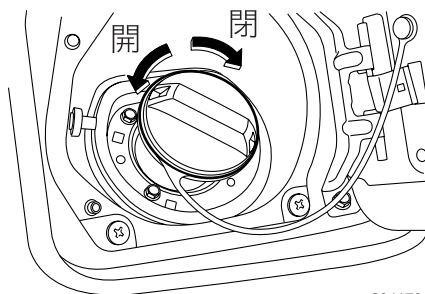
閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料補給口）を手で押し付けてください。



201172

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。
燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。



201173

警告

燃料補給時には必ず次のことを守りください。

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1-25ページ参照

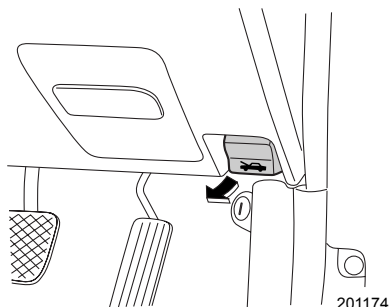
注意

セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。

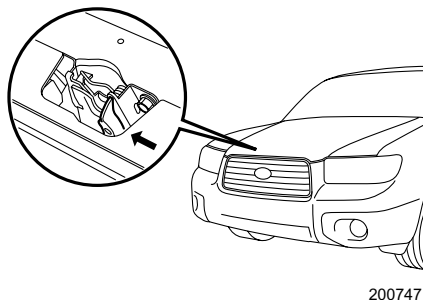
ボンネット

■開けるとき

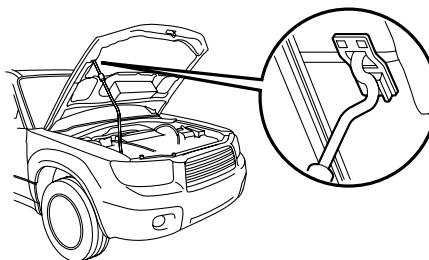
- ① ボンネットのオープナーレバーを引きます。運転席側のインストルメントパネル右下にあります。



- ② フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押し、ロックを外し、ボンネットを開けます。



- ③ ステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れ、固定します。



運転する前に

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くになったら（約30 cm）手を離します。

確実にロックされていることを確認してください。



注意

ボンネットを開閉するとき

- 走行後すぐに開けるとときには、部品が熱くなっているので、やけどしないように注意してください。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。



アドバイス

ボンネットを開けるときには

ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

ボンネットを閉めるとき

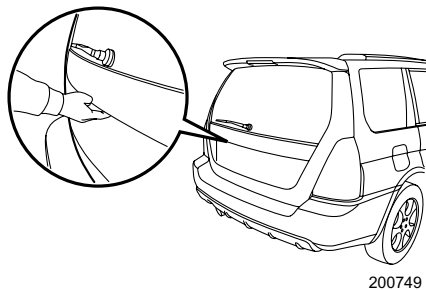
ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

リヤゲート

電波式リモコンドアロックまたは集中ドアロックスイッチにて施錠、解錠ができます。

■開けるとき

リヤゲートハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。



200749

運
転
す
る
前
に

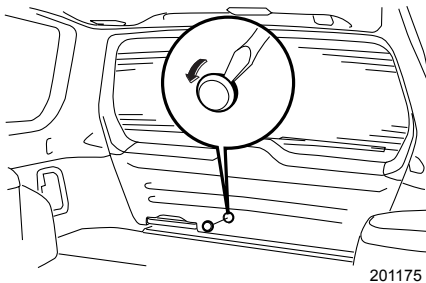
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。半ドアでないことを確かめます。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障等でリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

- ① リヤゲートトリムのキャップを、細いマイナスイドライバーなどを使って外す。
- ② 穴の斜め下方向に指を入れ、レバーを上方向に上げる。
- ③ 車外からリヤゲートを開ける。



201175



注意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。



アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- リヤゲートハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物が当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

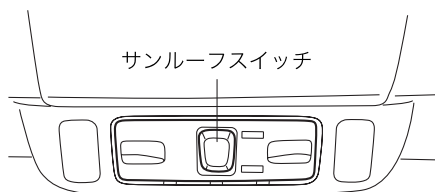
電動ガラスサンルーフ

電動ガラスサンルーフは、エンジンスイッチがONのときに作動します。

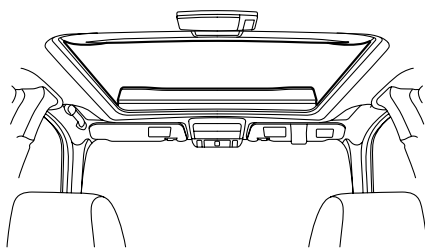
■電動ガラスサンルーフの開閉

●開けるとき

- ①全閉または任意の位置からスイッチを「OPEN」側に押し、全閉位置から約50 cmまで開き、停止します。また、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上がります。
- ②再度スイッチを「OPEN」側に押しと全開まで開きます。任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを「OPEN」または「CLOSE」側に押しします。



200056



200057



注意

サンルーフを開口したときには

- 停車中、開口部のふちに腰掛けたり、荷物をのせるなど大きな力を加えないでください。ルーフがへこむことがあります。
- 全開または全閉になったらスイッチを押し続けしないでください。サンルーフモータの損傷の原因になります。



アドバイス

- 走行中は安全上、一旦停止位置での使用をお奨めします。
- 全開で走行すると、車速によって「ポッポッポッ」と耳を圧迫するような音が発生します。このようなときは、一旦停止位置で使用することによって圧迫音が軽減します。

●閉めるとき

- ①スイッチを「CLOSE」側に押すと、全閉になる手前約20 cmまで閉まり、停止します。
- ②安全を確認してから再度スイッチを「CLOSE」側に押すと全閉まで閉まります。
任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを「OPEN」または「CLOSE」側に押します。

警告

サンルーフを開閉するときには

- 走行中または一時停止したときに開口部から顔や手、物などを出さないでください。車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。とくにお子さまには気をつけてください。
- サンルーフを開閉するとき手や首を挟まないように気をつけてください。とくにお子さまには気をつけてください。
- 走行中または一時停止したときに開口部のふちに腰掛けたりしないでください。万一のとき投げ出されることがあり危険です。



アドバイス

サンルーフを開閉するときには

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車した後開けるときは、サンルーフの上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪の後には、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、のせた荷物に当たらないように気をつけてください。

●サンルーフ反転機能

閉じるときに、窓枠とサンルーフとの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフの作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

注意

サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

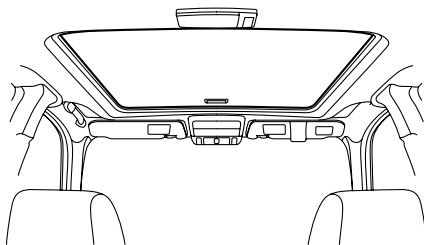


アドバイス

環境、走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

■サンシェード

ガラスルーフと連動して開閉します。
サンルーフが全閉のときは、手で開閉できません。



200058

アドバイス

サンシェードを開閉するとき

なるべく全開か全閉で使用してください。

途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。

■サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検整備を受けてください。

シート

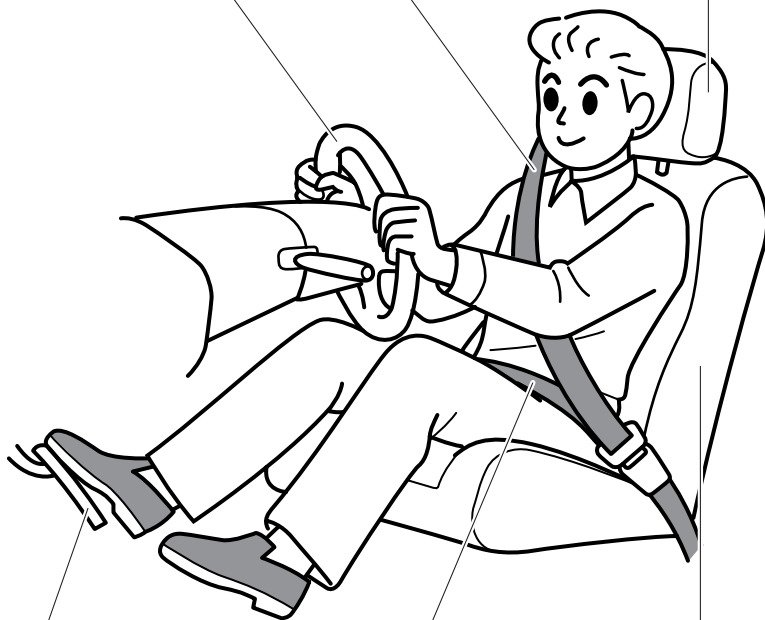
正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

ハンドル操作が
楽にできること
(運転席)

ねじれがなく肩に
充分かかること

ヘッドレスト（ピロー）の
中央が耳の後方にくること



ペダルが十分に
踏み込めること
(運転席)

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること


背当てではできるだけ立てて背中を
離さず、深く腰掛けること
(ハンドルに近づき過ぎないこと)

201176


 **警告**

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり、「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

 **注意**

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

 **アドバイス**

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

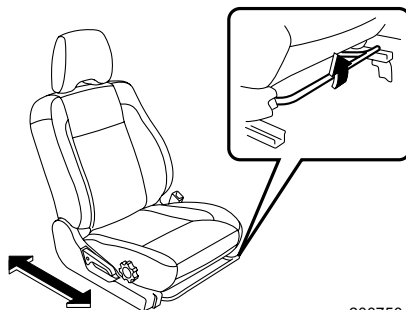
フロントシート

■マニュアルシート

シートのドア側と下部にあるレバーとダイヤル操作で調整ができます。

●スライド調整（前後の調整）

下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



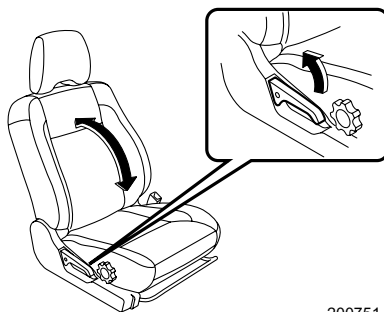
200750

⚠ 注意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

ドア側レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



200751

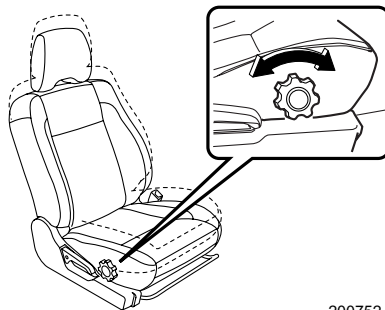
⚠ 注意

調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

●上下調整（運転席のみ）

ダイヤルを前側に回すとシートクッションが上がり、後ろ側に回すとシートクッションが下がります。

無段階に調整することができます。



200752

■パワーシート

シート右横のスイッチ操作で調整ができます。

⚠ 注意

操作するときには

スイッチ部に異物を挟まないようにご注意ください。走行中、予期しないときに動くことがあります。

🏠 アドバイス

バッテリー上がりに注意

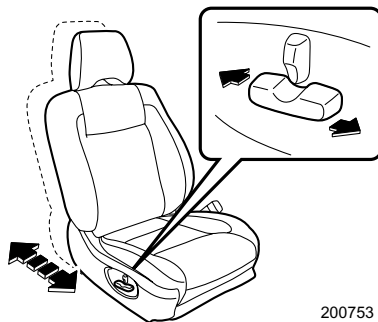
エンジンがかかっているときに調整してください。

操作するときには

- 調整できる終点まで移動させたときにスイッチを押し続けしないでください。故障の原因になります。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しないでください。故障の原因になります。

●スライド調整（前後の調整）

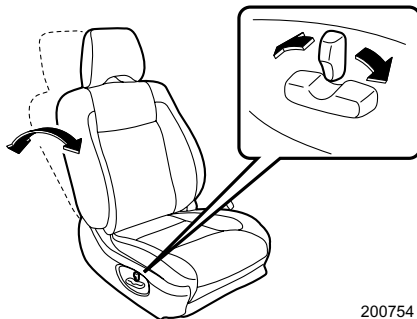
スイッチ全体を前後に動かして調整します。



200753

● **リクライニング調整（背当て角度の調整）**

リクライニングスイッチを前後に動かして背当て角度を調整します。



200754



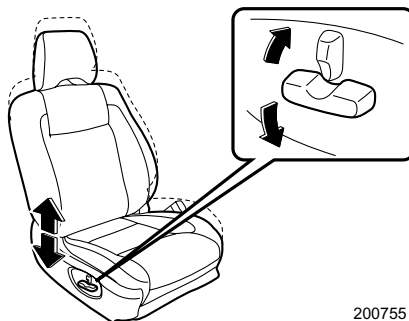
アドバイス

リクライニング調整中は

リクライニング調整と他の調整を同時に行わないでください。

● **上下調整**

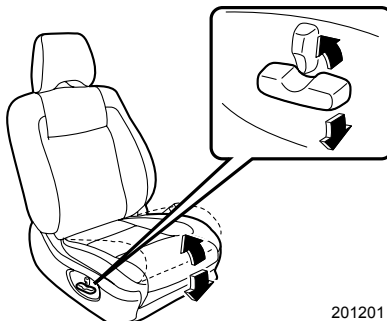
スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。



200755

● **座面前側の高さ調整**

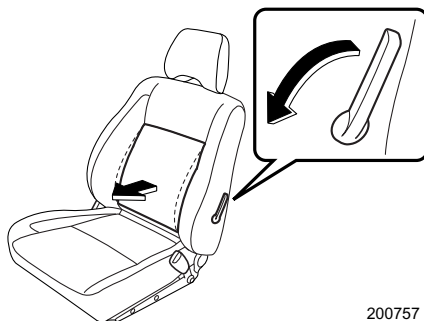
スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。



201201

■ランバーサポート（腰部支え調整）

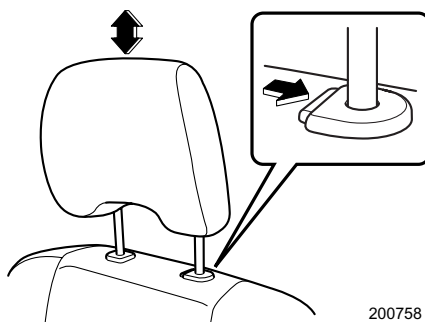
レバーを前に回すと腰部を支える背当ての一部がもり上がります。無段階で調整することができます。



200757

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。



200758

警告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。

外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

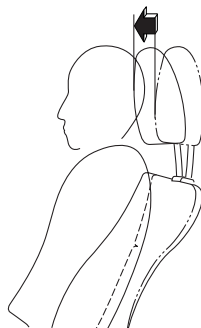
■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストには、アクティブヘッドレストが装備されています。

この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。

これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。

万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。



100089

⚠ 注意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。十分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

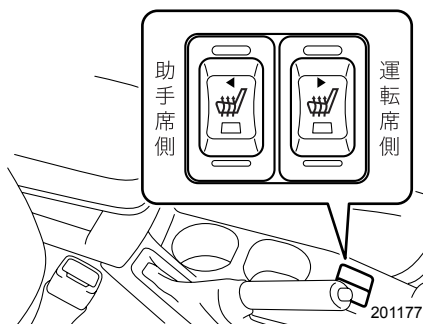
■シートヒーター ❄

エンジンスイッチがAcc またはON のときスイッチを押すとシートが暖まります。

作動中はスイッチ内のランプが点灯します。

● (HI) : 早く暖めたいときに使います。暖まったらLO にしてください。

● (LO) : 保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。



201177

⚠ 注意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、病気の方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しないでください。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、充分乾かしてから使用してください。

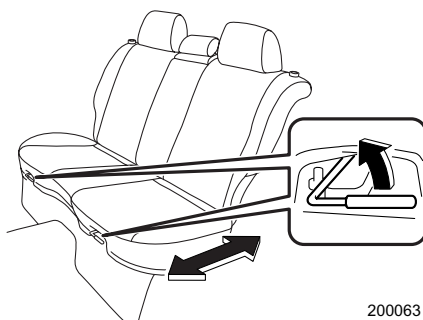
🏠 アドバイス

- エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬いものや突起のあるものをのせないでください。

リヤシート

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

レバーを完全に引き上げた状態で座面を前方に動かし、背当ての角度を調整します。4段階の角度調整ができます。レバーを下ろし、ロックを確認します。



200063

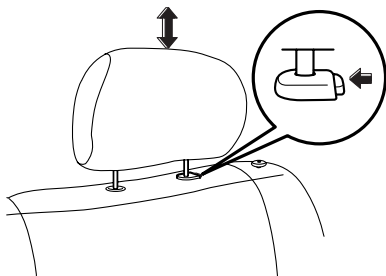
⚠ 注意

- リクライニング操作後は、座面をゆさぶって、シートが確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背当てを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ISO-FIX方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したときは、リクライニング操作を行わないでください。

■ピローの高さ調整

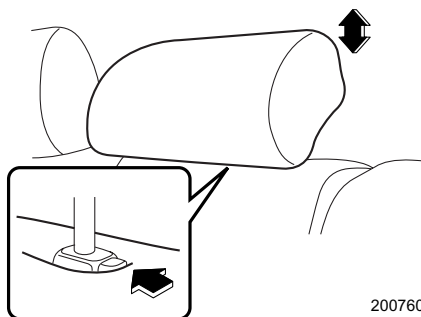
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

外側席用



200153

中央席用



200760

運転する前に

警告

ピローは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ピロー中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

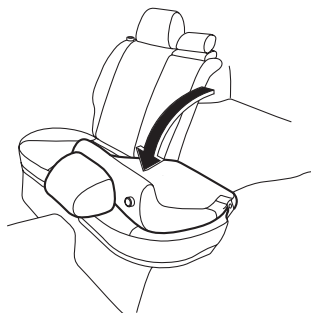
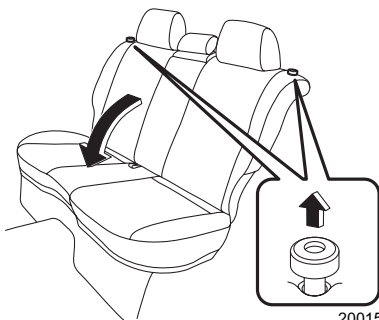
乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■6：4分割リヤシートの背当てを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

ピローの横にあるロックノブを引き上げながら背当てを倒します。



注意

- チャイルドシートを取り付けているときは、背当てを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 背当てを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください。
- ☆2-44ページ参照

アドバイス

上り坂などで背当てが倒れないときは、手で倒してください。

●背当てを元に戻すとき

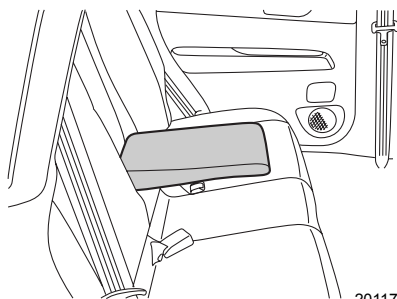
背当てを起こし、確実にロックします。

警告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
 - 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。
- ☆2-25 ページの注意事項もお守りください。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
 - シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

■アームレスト

前に倒して使用します。



201178

警告

アームレストを使用するときには

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

①最初にシートベルトを装着する。

②次にアームレストを下ろす。

先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。



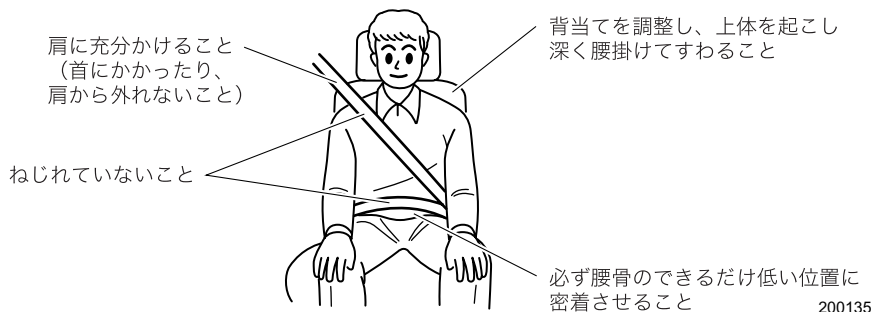
アドバイス

アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



運
転
す
る
前
に

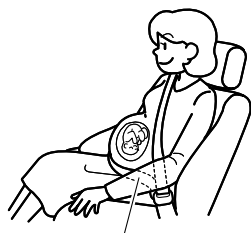
警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

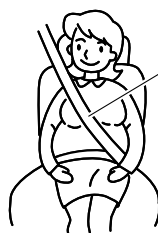
- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2-24 ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。


警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置

胸部に
かかるように

200136

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

<選択の目安>

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重(目安)	9 kg以下	9~18 kg	18~36 kg
身長(目安)	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢(目安)	0か月~ 9か月頃まで	4か月~ 4歳頃まで	4歳~ 12歳頃まで

警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。



200364

万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があります、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。

(ELR機構)

■3点式シートベルト

●着用のしかた

- ① タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



200119

- ② ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



200120

- ③ 正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

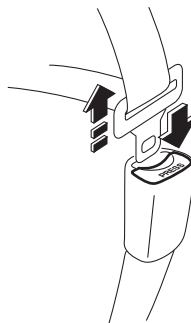


200121


●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。

ベルトが自動的に収納されますので、引っかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



201179


アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2-40ページ参照

- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。

それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警告灯

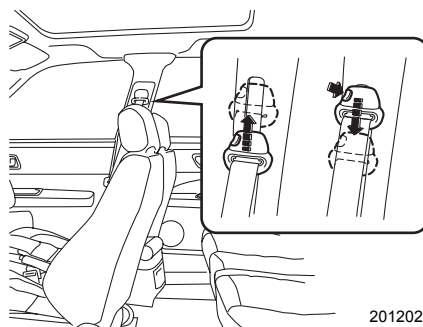
エンジンスイッチが ON で運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。



200122

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

- ① 上げるときはショルダーアジャスター本体を上動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
- ② ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。



201202

⚠ 警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

🏠 アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。

☆2-39ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト


プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込み、前席乗員をシートに確実に固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。

運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

運転席側



助手席側




注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。
- ☆2-24ページ参照
- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき


アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトが3名分装備されています。中央席にも格納のできる3点式シートベルトが装備されています。

■外側席用シートベルト

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。

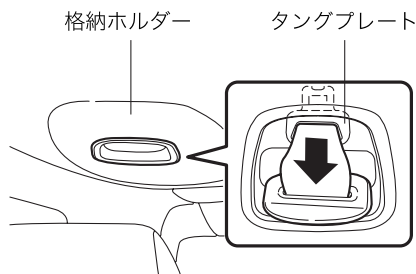
☆2-38ページ参照

■中央席用シートベルト

必ず中央席用のシートベルトを使ってください。タングプレートとバックルに「CENTER」印があります。

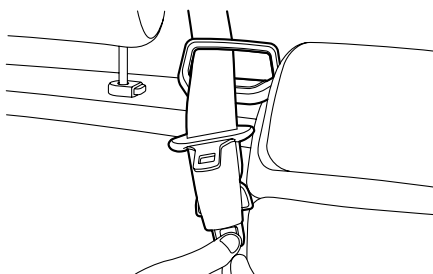
●着用するとき

- ①カーゴルームのルーフにある、格納ホルダーよりタングプレートを一旦車両後方へ水平方向に引き抜いてから前方へ引き出してください。



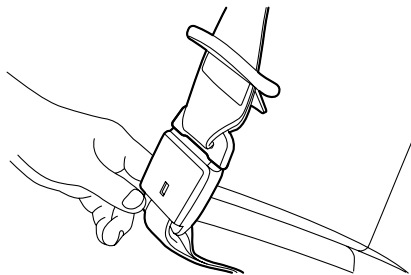
200067

- ②カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出し、シートベルトを背当てのガイドに通します。



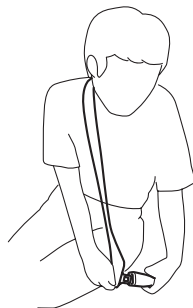
200068

- ③ コネクター（小さいバックル）とタングプレートをラベルが付いている面を合わせて結合してください。

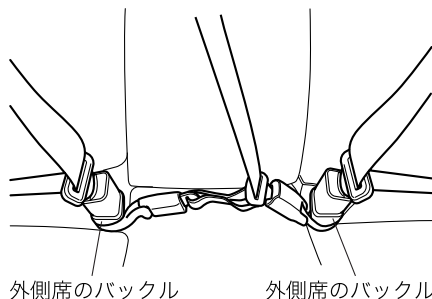


201112

- ④ フロント3点式シートベルトと同じ要領で着用します。このとき、中央席用のバックルとコネクターは、必ず外側席用のバックルの前を通してください。



200168



外側席のバックル

外側席のバックル

200159

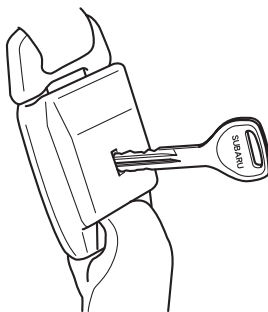
⚠ 注意

コネクターを結合しないで使用するとシートベルト本来の機能が発揮されません。必ず結合してから着用してください。

運
転
す
る
前
に

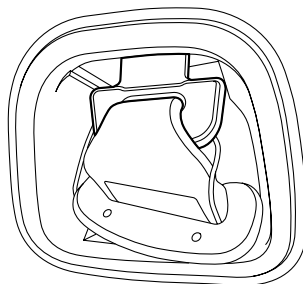
●格納するとき

- ①バックルの「PRESS」ボタンを押します。
- ②コネクターの解除ボタンをキーなどを使って押し、分離します。



200158

- ③シートベルトを巻き取り、小さいタンブレート（コネクター）をカーゴルームの格納ホルダーに差し込み、固定させます。



201181

⚠ 注意

- 使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないように気をつけてください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。

チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようになります。
(ISO-FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2-46 ページの「ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー」をご覧ください。)


警告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

① リヤシートの背当てをリクライニングレバーを使い、元の位置まで起こします。

☆2-31ページ参照

② チャイルドシート（別売／スバル純正ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。

③ チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。

④ シートベルトを引き出し、チャイルドシートにシートベルトを通して、タンクをバックルに確実に差し込みます。

⑤ 肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。

（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）


⑥ チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。

⑦ チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

① バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外します。

② シートベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。


アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が動き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。

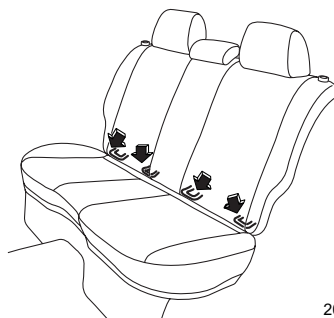
ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー

リヤシートの左右席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートを固定するための専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーが装備されています。

- ISO-FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートは、専用のISO-FIX固定バーとテザーアンカーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。

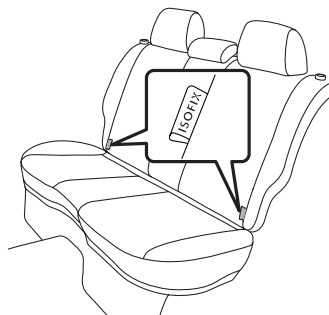
■ISO-FIX固定バー

背当てとシートクッションのすき間にあります。



200161

ISO-FIX固定バーが装備されていることを示すタグが背当てについています。

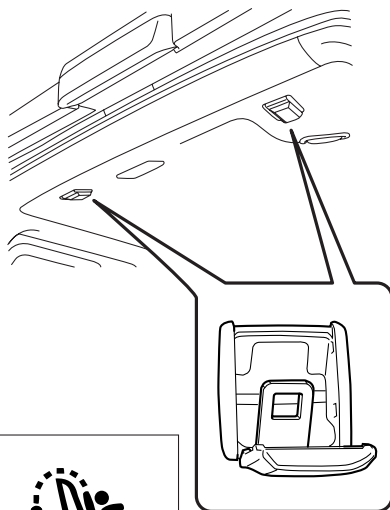


200977

■テザーアンカー

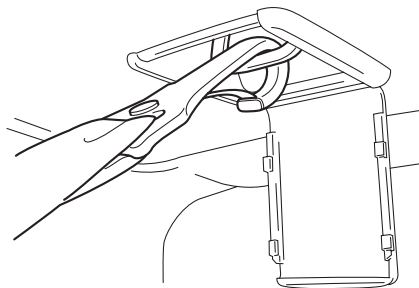
室内ルーフ後側側の左右にあるカバーを開けるとあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。

カバーを開けるとテザーアンカーが現れます。



200065

チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。



200093

●スバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

① リヤシートの背当てをリクライニングレバーを使い、元の位置まで起こします。

☆2-31ページ参照

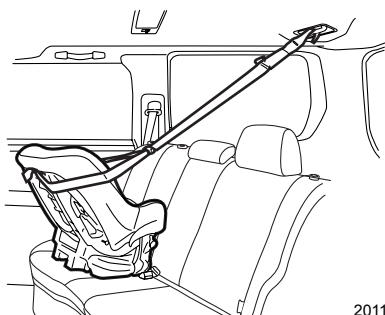
② ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのピローを取り外します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

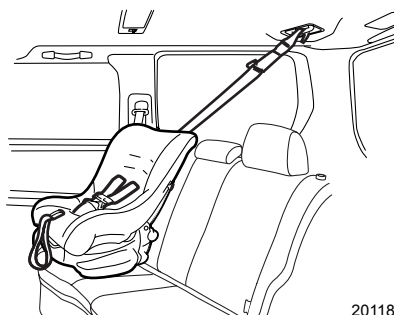
- ③ 背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。
- ④ ベースシートをISO-FIX固定バーに確実に取り付けます。
- ⑤ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
- ⑥ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
- ⑦ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
- ⑧ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
- ⑨ ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

後ろ向きの場合



201183

前向きの場合



201182

警告

- ISO-FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを取り付ける場合は、必ずISO-FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります
詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部、頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

警告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-35ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-24ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

警告

膝の上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

警告

- お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとってもっとも安全な乗車位置です。
- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



200366

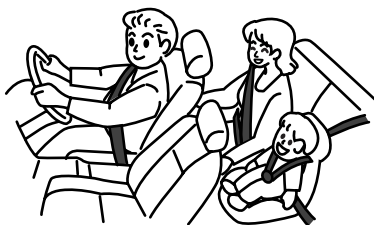
- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。



100234

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

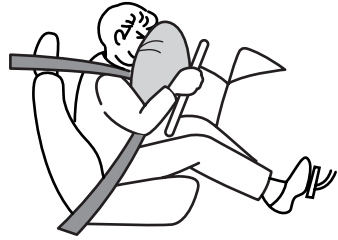
SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。



200127

■運転席SRSエアバッグ

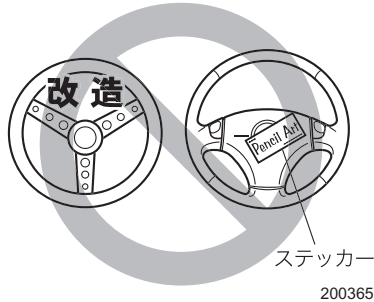
ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。



■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

- ハンドルを交換したり、センサーパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



200365

- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

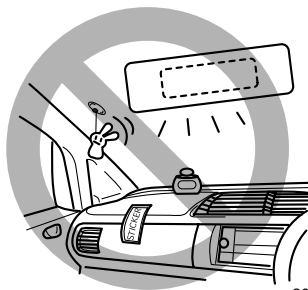
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたリ、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200515

■SRSサイドエアバッグ

運転席、助手席各シートの背当てに格納され、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみます。

SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



■SRSサイドエアバッグ付車に関しては、次の事項をお守りください

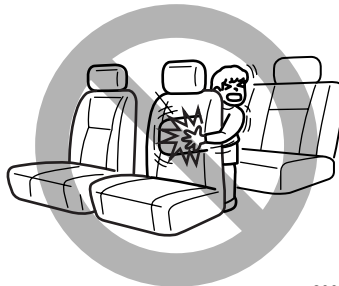
警告

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢ですわらないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200762

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てを抱えこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部を強打したり、衝撃を加えないでください。正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



200369

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- スバル純正の SRS サイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。
 使用する場合には添付されている使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けしないでください。SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200370

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

警告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしほみ始めます。
- 排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしほんで視界を妨げません。
- SRSサイドエアバッグは膨らんだ後、数秒後にしほみます。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRS エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱いかなどは、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

■ 運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

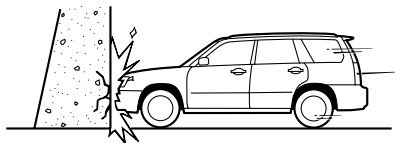
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合があります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

● 作動するとき

- 次のようなときに作動します

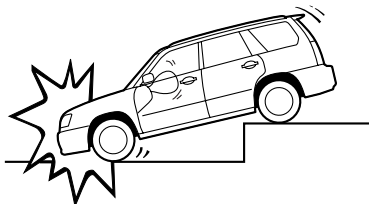
20～30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき



200074

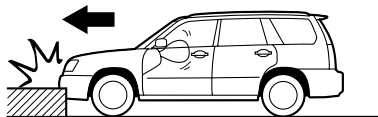
- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき



200075

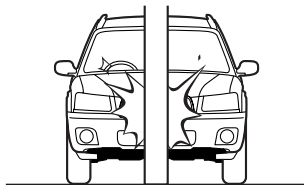
縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき



200076

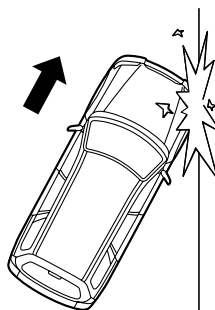
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき
電柱などに衝突したとき



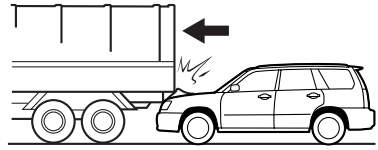
200077

斜め前方への衝突のとき



200078

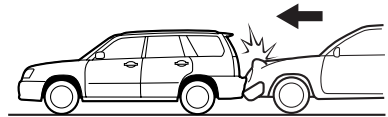
トラックの荷台にもぐり込んだとき



200079

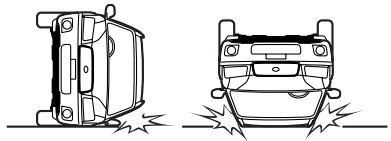
- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮されません

後ろから衝突されたとき



200080

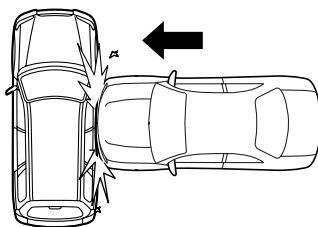
横転や転覆したとき



200081

運
転
す
る
前
に

横方向から衝突されたとき

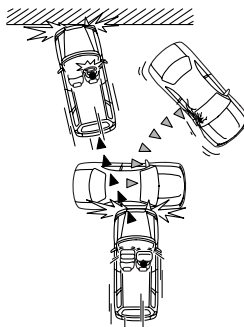


200082

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



200083

■SRSサイドエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部と頭部への衝撃をやわらげる装置です。

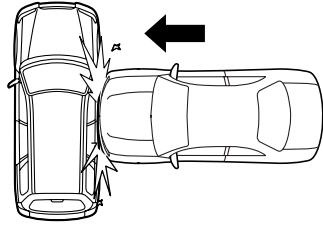
SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS サイドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します

側面に真横から衝突されたとき

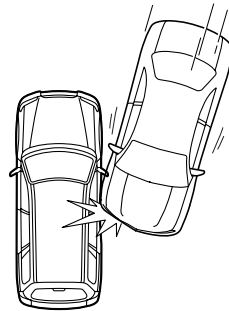


200084

●作動しにくいとき

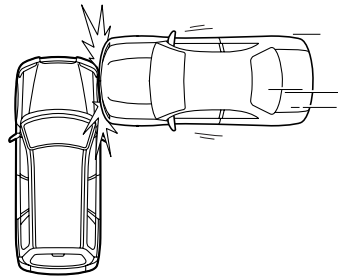
- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります
衝突した物の変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグは作動しにくくなります。

車両側面に斜めから衝突されたとき



200085

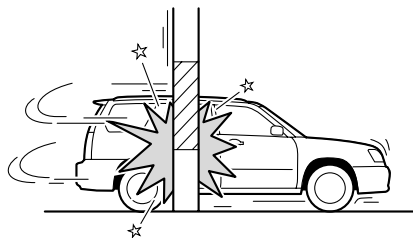
客室以外に側面から衝突されたとき



200086

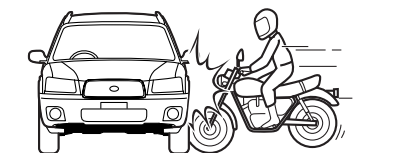
運
転
す
る
前
に

電柱などに衝突したとき



200800

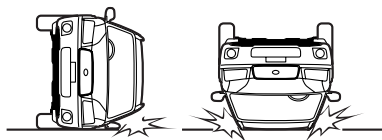
側面にバイクが真横から衝突したとき



200087

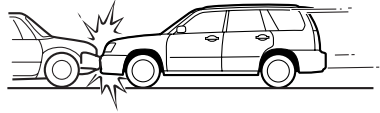
- 次のような場合はSRSサイドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません

横転や転覆したとき



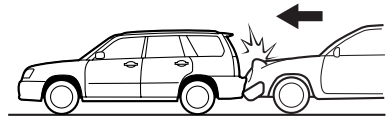
200081

停車中や走行中の車に正面衝突したとき



200088

後ろから衝突されたとき

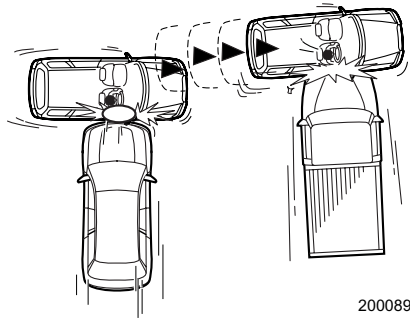


200080

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません

一度SRSサイドエアバッグが作動した後の
衝突

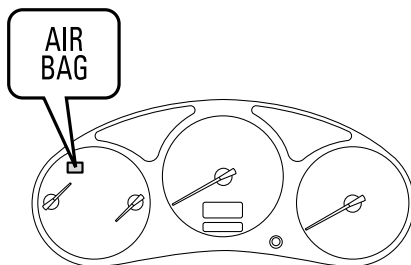


200089

運
転
す
る
前
に

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイドの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯すれば正常です。



200094

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

警告

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
シートに内蔵されているSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車では、センターピラーのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

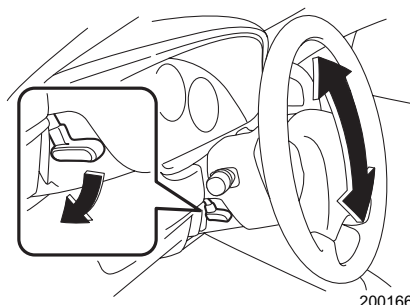
運
転
す
る
前
に

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

- ① チルトレバーを押し下げます。
- ② ハンドル位置を合わせます。
- ③ チルトレバーを引き上げます。
- ④ ハンドルが固定されたことを確かめてください。



警告

調整は必ず走行前に

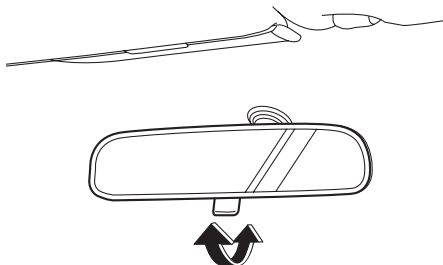
- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながる可能性があります。

ルームミラー

■防眩ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。

通常はレバーを前方の位置にします。夜間走行時、後続車のヘッドライトランプがまぶしいときは、レバーを引きます。ライトの反射を弱くすることができます。



注意

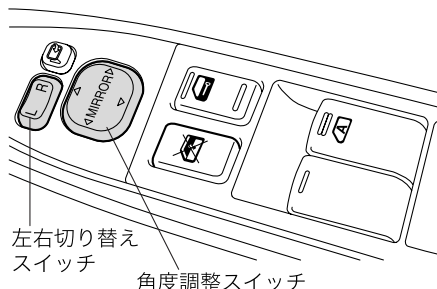
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

■ 電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

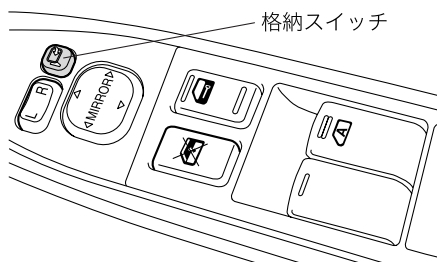
- ① 調整するミラーを選びます。
左右切り替えスイッチを調整するミラー側に押しつけて切り替えます。
「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー
- ② 「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして後方視界が充分確認できる位置に調整します。



201003

■ 電動格納式ミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押し込むと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。



201004

🏠 アドバイス

- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押しつけてください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇄元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ヒータードアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

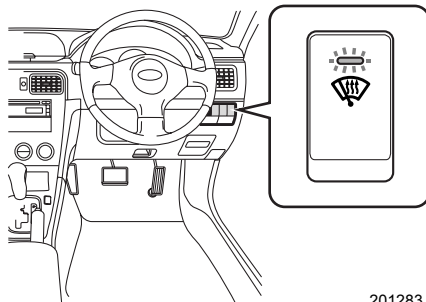
ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使用します。フロントワイパーデアイサーに連動して作動します。

- フロントワイパーデアイサースイッチを押します。

約15分後、自動的にOFFになります。

- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。

☆3-15ページ参照



201283



アドバイス

消費電力が大きいため長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。